



平成22年4月26日

卓話『音楽から学んだ事』

声楽家

東京六本木ロータリー・クラブ会員

齊藤 千穂 様

本日お話をさせていただきます、会員の齊藤千穂でございます。1972年宮崎生まれ、宮崎育ちの37歳声楽家でございます。皆様の大体半分、3分の2程度しか生きておりませんので、まだまだ人生経験が少ないのですが、今日は「音楽から学んだ事」を少しだけお話させていただきたいと思っております。

幼い頃より音楽に親しみ、高校は音楽科のある学校へ進学いたしました。ピアニストになりたいという夢を描いて、ピアノを専攻しておりました。毎日が練習、練習でピアノ三昧の日々を過ごしておりましたが、決して苦に思うことはなく、むしろ楽しく充実した学生生活でございました。副科でしびしび受けていた声楽のレッスンなのですが、大変尊敬できる素敵な先生との出会い、先生の薦めにより声楽専攻に転科する事になり、大学は声楽学科で入学いたしました。

“音楽は時間の芸術である”これは母校武蔵野音楽大学の学長先生からいただいたお言葉です。確かに音楽は限られた時間の中で自己表現をしなくてはならない芸術です。この言葉通り学生生活はレッスン、試験、事務手続き、門限・など時間に対して大切にしよう大変厳しいものでした。先日メイクアップで行った東京ロータリーで、たまたま音大の学長先生にお目にかかる機会があり、当時のお礼とご挨拶を申し上げました。学長先生の教えて下さった“音楽は時間の芸術である”という言葉は今も私の深く胸に刻まれております。

大学卒業後、私は中学教師、ピアノ教師、声楽教師、演奏、そして音楽企画などの仕事をやって参りました。音楽企画の仕事はコンサート当日までコンサートがスムーズに運ぶようにするコンサート運営側の仕事です。その中でお客様からの直接の声をいただく事も多く、「お客様は何を求めているのか、人間は何を求めて音楽を聴きに来るのか」…などなどお客様の側に立ったサービス“おもてなしの心”を学んだ時代でもありました。

その後結婚、主人の転勤に伴い私もフランスパリへ行く事となりました。現地で音楽の勉強をする為、音楽院に留学しようと考えたのですが、主人の異動の時期と重なりそうだった為、目標をコンクールに変更して勉強を続けました。その時に出会ったのが

エディス・セリーグ先生でありました。先生との出会いは私の人生にとってかけがえのないものとなりました。コンクールに挑戦する際、「私とピアニストと齊藤さんと3人で力を合わせて賞を取りましょう！」と言って下さったのです。

音楽家というのは、本番前になってくると共演者、スタッフも入りチームワークで仕事をしていくのですが、それに至るまでは自己練習の時間が大変多く、どちらかという孤独を感じやすい仕事です。「責任を持って一緒にがんばりましょう！」と言って下さった言葉が何と力強く、温かく私の心に響いたか分かりません。また「色々迷う前にまずやってみなさい、そして結果は良くても悪くても後についてきます。結果が出たらまた考えましょう」とも言って下さいました。セリーグ先生に教えていただいたこの前向きな考え方は、それからの私の目印となり、今も優しく、明るく、私の行く道を照らし続けていております。

ビュイグ・ロジェ先生は、戦後日本でフランス音楽普及に勤め、偉大な功績を残したピアニストです。彼女が亡くなった今もなお、パリのセリーグ先生、私のディクシオンの先生であるマルグリット・フランス先生、メゾ・ソプラノの中村浩子先生等、彼女の意思は沢山の弟子、共演者達に受け継がれ生き続けており、そのまた弟子である私も彼女の意志に賛同し現在も活動をいたしております。

音楽を通じて少しでも社会貢献、国際貢献できる人間になれるようがんばって参りたいと思います。昨年オーディションに合格し、現在某音楽事務所にて声楽の演奏活動しております。春になりコンサートのシーズン到来です。皆様お時間ございましたら、次回のコンサートは是非会場まで応援にいらして下さいませ。お待ち申し上げます。

本日は長時間お話をさせていただきありがとうございました。

